

平成31年度 東京都立鹿本学園 学校経営報告

本校は、肢体不自由教育部門（小・中・高3学部）と知的障害教育部門（小・中2学部）の2部門に5学部を設置する新たなタイプの併置型特別支援学校として開校6年目を迎えた。学園構築期の平成26年度からの3年間、学校経営計画に「特別重点目標」を設定したことが奏功し目標を達成するとともに、併置校のメリットを生かして、キャリア教育と読書活動の充実を図った結果、2つの文部科学大臣表彰を受賞することができた。平成29年度からは開校以来教育実践の改善・充実に努めた教職員の大量異動期に入った。そこで平成29年度から31年度までの3年間のあるべき姿を「確実な教育成果を約束できる学園」とし、これまでの成果を継続・発展することに注力した。開校以来のスローガン「魅力ある併置校を目指して」を研究と教育実践に関連付け、「鹿本学園に勤務したことで自分の専門性が高まった」と教職員が自信をもって言える学校であるよう「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」「言語活動及び読書活動推進指定校」等の研究指定を積極的に受けカリキュラム・マネジメント等、全校的な実践研究に基づく教育を推進した。（※以下、肢体不自由教育部門をS部門又はS、知的障害教育部門をN部門又はNと表記する。）

1 今年度の取組と評価

(1) 重点目標に関する数値目標と実績値及び今年度の取組

重点目標1 併置型学園としての魅力ある教育の充実・発信 自己評価：○

数値目標 全関係者評価「併置型学園としての魅力ある活動を推進することができている」 $\geq 90\%$ ⇒85%

全関係者評価「学校内外の活動をHP、FB等の活用により情報発信ができている」 $\geq 90\%$ ⇒96%

取組 併置校の魅力充実プロジェクトの推進

- ・併置型学園としての魅力ある教育活動の充実・発信（都指定校等）

「両教育部門の教育活動全体をとおして、キャリア教育を中心としたカリキュラム・マネジメントの推進」

「都立特別支援学校における社会貢献活動モデル事業」「言語活動及び読書活動の充実事業研究指定校」「特別支援学校におけるスポーツ教育推進指定校」「特別支援学級の専門性向上事業」「S部門準ずる教育課程におけるICT機器を活用した遠隔教育実施モデル校」

- ・各学部、各教育課程での育てたい力を明確化、年間指導計画、カリキュラムシート等の作成、活用、評価のPDCAサイクルの確立
- ・東京2020のレガシーとして鹿本音頭と踊りを創作し児童・生徒、教職員に継承される伝統を確立
- ・全学園生による作品展示や合同書道展等の開催による一体感の創出
- ・両部門合同の「読書推進月間」「読書マラソン」「多読者表彰」による読書活動の推進
- ・地域共生社会の創出へ向け広報活動、ボッチャによる理解推進、地域支援による関係性強化

重点目標2 効率的・機能的な学校組織の確立による組織力向上と環境整備 自己評価：△

数値目標 委員評価「個人端末を活用した組織的・効率的な業務改善を推進し、ライフ・ワーク・バランスの意識向上を図ることができている」 $\geq 85\%$ ⇒評価未実施、各委員から大規模併置校の現状の理解と提言を得た

取組 学園を運営するシステムの更なる改善

- ・学校評価を9月に実施し、PDCAサイクルの短縮を図り、学校運営連絡協議会の提言を次年度学校経営計画に反映

- ・卒業後を見据えた児童・生徒、教職員間の言葉遣いの改善
- ・主幹教諭補佐機能を重視した主任教諭等への活躍機会の提供による能力開発・人材育成を実施。主幹教諭昇任 4 名
- ・大量異動期における校内ルールや校務ノウハウの蓄積・整理・共有の的確な実施による業務改善
- ・時間外にメッセージ電話導入、定時退庁日、学校閉庁日、休暇取得促進月間・週間の設定等の働き方改革
- ・接遇や教育相談対応等に関する全教職員対象のビジネススキル研修の実施

重点目標3 専門性のある人材を活用した教育の充実 自己評価：◎

数 値 目 標 委員評価「自立活動指導員や外部専門員を日々の指導に活用し、授業改善、教材充実が図られている」
 $\geq 85\% \Rightarrow 100\%$

取 組 人材活用・協働システムの更なる改善

- ・S学校介護職員と教員の協働体制の充実と教育支援、医療的ケアのスキルアップ及び専門機関連携による専門性向上
- ・カフェや栽培園芸のノウハウを有する企業の専門家からの助言を活用した作業学習の充実
- ・個別指導学習と連動した外部専門家による授業者支援・保護者支援と言葉・数の獲得につながる指導の充実
- ・N外部専門員を人材活用した教育環境整備、授業改善、校内研究の充実及び教材充実
- ・N発達臨床心理士を活用した授業者支援

目標1 教育課程の充実 ☆社会参加に向けた確かな学力の獲得 自己評価：◎

学 校 評 価 委員評価「児童・生徒の将来を見据えた、キャリアと自己肯定感を高める教育が進められている」
 $\Rightarrow 100\%$

取 組 新たな教育課程の開発・実施

- ・共生社会を担う人材育成のため、カリキュラム・マネジメントに関する実践研究の推進と実践研究発表
- ・キャリア発達の視点を重視した学習活動の展開（S高類型化、S高虹輝祭における弁論発表、大学等への校外学習）
- ・オリンピック・パラリンピック教育の視点も踏まえたスポーツ教育の推進。近隣校とのポッチャ大会実施
- ・カフェ営業、野菜販売等を通じた生徒の就労意欲向上
- ・ALTを活用した外国語活動、英語指導の充実
- ・普通科・就業技術科・職能開発科志望者への丁寧なガイダンスと学科に応じた指導カリキュラムの提供

目標2 授業力の向上 ☆個別学習等の「個に応じた学習指導」の力量形成 自己評価：◎

学 校 評 価 保護者評価「日々の授業について指導環境の整備や教材の工夫に努め、わかりやすい授業の充実に取り組んでいる」
 $\Rightarrow 97\%$

取 組 授業力向上システムの定着

- ・72回の授業者支援会議で得たノウハウの蓄積による改善策の共有と活用
- ・S学習指導アドバイザー等外部専門員を人材活用した授業者支援・保護者支援の実施
- ・授業力向上・教育支援研修の実施
- ・指導に関する説明力の向上をねらい、授業参観ガイドの配布、教材展開催
- ・教材作成アドバイザーを活用した教材作成の活発化（1教員1教材作成と教材展エントリー）

目標3 言語能力の向上・読書支援の推進 自己評価：○

学 校 評 価 保護者評価「適切な言葉遣いや読書活動を通して、児童・生徒の言語環境を高めることができている」

⇒96%

取組 言語能力向上（含む読書支援）プロジェクトの推進

- ・遠隔授業、弁論大会、読み聞かせ、調べ学習等、両部門での多様な言語活動を実施
- ・本の貸出管理、読書推進活動等、図書館の運営ノウハウの情報提供
- ・オープンライブラリーやICT等を活用した思考力、判断力、表現力等を伸ばす指導の実施
- ・タブレットの活用による調べ学習の充実やプレゼンテーション能力の向上、情報モラル定着の授業実施
- ・視線入力装置等を活用した意思表示や自己決定力を高める実践研究の推進
- ・言語能力や文字に関する能力を高めるための指導技法を学ぶ授業力向上研修の実施
- ・企業との共同開発研究によるマルチメディアDAISYの利用拡大

目標4 児童・生徒が安心して学校生活を送れる生活指導体制の構築 自己評価：◎

学校評価 委員評価「障害特性を踏まえた防災教育や、安全な施設設備の整備を意識・実践することができている」

⇒100%

関係者評価「スクールバスの安全発着体制や一人通学の指導体制構築等、通学環境の整備ができている」

⇒93%

取組 安心・安全プロジェクト

- ・障害特性をふまえた宿泊防災訓練等の防災教育を実施
- ・地域防災訓練への継続的な協力と宿泊防災訓練時の連携等の地域との災害時相互協力関係を構築
- ・インシデント・アクシデント報告の徹底と事故を教訓とした再発防止訓練の実施
- ・施設・設備利用に関する安全な利用方法の確認
- ・通学環境の整備（SB発着体制、送迎車両対応、一人通学ステップ確立、通学路点検）
- ・体罰いじめ根絶に向けたアンガーマネジメント、カウンセリング研修実施、服務事故防止研修の内容・方法の改善
- ・自殺防止／都教委作成指導資料の活用、児童生徒への相談先の周知

目標5 安心できる保健体制と安全で美味しい給食を提供できる体制の構築 自己評価：◎

学校評価 関係者評価「都の方針に基づく、安心・安全な医療的ケア制度の啓発と医療的ケア体制が実現されている」

⇒86%

関係者評価「適切なアレルギー対応を行うとともに、接触技術を高め、安全でおいしい給食を提供している」

⇒97%

S部門関係者評価「医療的ケアの実施に関して、看護師と教職員の協働体制が図られている」

⇒83%（保護者未記入32%）

取組 併置型学園に適した保健・給食システム構築プロジェクト

- ・大量異動期に備え、効率的・合理的な保健業務の改善実施、業務の「見える化」推進
- ・適切なアレルギー対応を行う為の教職員の資質向上研修及び校内体制の点検実施
- ・都方針に基づく安心・安全な医療的ケア制度の啓発並びに適正な医療的ケア体制の堅持
- ・医療的ケア専用通学車両の円滑な運行と車内での安全な医療的ケアの実施、非常勤看護師の同乗
- ・医療的ケアに関するインシデント・アクシデント情報の周知と事故再発防止の徹底、研修の実施
- ・学校介護職員を人材活用した医療的ケア体制の一層の充実
- ・安全で美味しい給食（約670食）の提供とリクエスト献立等、楽しい給食の工夫

目標6 地域支援力の向上

取組 関係セクションの連携と家庭支援の充実 自己評価：○

- ・学校介護職員志望者見学会の開催による人材発掘
- ・高等部進学及び高等部卒業後の社会参加を見据えた進路学習及び保護者支援の実施
- ・学校外活動等の情報発信や地域向け情報発信（HP等の活用）
- ・固定学級支援、放課後デイ施設職員対象研修会の実施等、地域の施設及び教職員への支援実施
- ・適性就学につながる学校公開と個別相談の実施
- ・花畑学園開校に向けた学校間連携とPTA等保護者支援の実施

目標7 魅力ある学校環境・職場環境の創出 自己評価：○

学校評価 保護者評価「清潔で美しい学校環境を整えることができている」⇒95%

取組 オフィス化計画

- ・掲示板の整備・活用、花壇・植込み・農場の美化・整頓等、愛校精神の基盤となるように清潔で美しい学校環境整備
- ・絵画作品等の常設展示、クリーン職員室の定着等、職場環境整備を実施
- ・保護者の協力等による読書活動推進のための教育環境整備

目標8 新たな特別支援学校・教育部門への開設準備及び開校後支援 自己評価：○

取組 蓄積情報の提供や人材協力

- ・花畑学園への開校支援、臨海青海特支や光明学園等への開校後支援
- ・他校支援や10周年記念に備えた、成果物の収集・整理・保存・記録と発信

研究目標 教育活動の一層の充実につなげる全校的実践研究の推進

取組 潜在的な教育力のパッケージ化、独自資源を活用した教育の特色化

全校研究テーマ「地域の中で主体的に生きる力を育む指導の充実 ～共生社会の実現につなげるカリキュラム・マネジメント～」

- ・S：自立主課程・知的代替課程／「子供の主体性を大切にし、キャリア教育の視点を生かした授業づくり」
- ・S：準ずる課程／「地域の中で主体的に生きる力を育む授業づくり」
- ・N：小学部／「社会生活に向けたコミュニケーションスキルを育む指導の実践」
- ・N：中学部／「共生社会を生きるためのソーシャルスキルを育む授業づくり」

全国公開研究会において本校の特色ある取組を以下の4セミナーで発表

- ・セミナーA／「しかもと音頭」の誕生とレガシーづくり
- ・セミナーB／「主体的・対話的で深い学び」の指導の充実（言語環境の改善）
- ・セミナーC／特別支援学校におけるICT機器の活用とプログラミング教育の実際
- ・セミナーD／地域の支援力アップを目指して～放課後等ディサービス職員への研修会等の取組～

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 東京都特別支援教育推進計画（第1・2期）及び実施計画への参画と貢献

○同じ障害部門・学部構成で開校した花畑学園への開校後支援

(2) 新中期計画を踏まえた教育指導の充実

※新中期計画は31年度経営計画参照

○職業教育・キャリア教育の充実

S：在宅・在校企業実習も含めた就労・進学の可能性追求、卒業生のフォローアップと進路情報還元

N：江東特支高等部機能開発科を念頭に置いた進路ガイダンスの展開及び保護者への情報提供

ON 中への早期からの高等部出願選択に関する情報提供と相談に基づく特別指導プログラムの提供

○平成28年度「キャリア教育推進優良学校：文部科学大臣表彰」を受けての普及活動と成果還元

⇒S・N 小学部からのキャリア教育実践の推進（キャリア発達を促す指導プログラムの開発と展開）

○平成29年度「子供の読書活動優秀実践校：文部科学大臣表彰」を受けての普及活動と成果還元

⇒全校読書活動のノウハウ提供、アクティブ・ラーニングの視点を加味した調べ学習の展開

○経営テーマ「魅力ある併置校としての創造的実践」の追究並びに各部門の専門性向上

(3) 人材育成の継続・充実

○今後の併置校運営を担うリーダー人材の育成

○授業力リーダーの育成（東京教師道場受講・修了者の成果還元と人材活用、指導教諭の人材活用）

○特別支援教育を担う若手教員の人材育成

(4) 31年度学校経営報告及び学校評価に基づく対策

○人権を尊重した呼名と言語環境の改善 → マイナス評価ゼロを目指し、愛情を含めた丁寧な語り掛けの徹底。

○学校評価の保護者回答率の向上 → A4 片面の回答用紙として自由記述欄も縮小して負担感を軽減する。

○情報不足のために保護者が評価できない項目 → 評価すべき事項等について事前の情報提供を図るとともに回答欄に「分からない」を追加

○開校から6年経過し保護者・教職員に理解が定着したと思われる事項も新たな転入者向けに再度周知する。

○保護者からの改善策の提案を増やし改善を進める。